

論文

現代韓国児童文学の特徴 ——韓国初等学校国語教科書掲載作品を通して考える A Study of Contemporary Korean Children's Literature and Korean Primary School Textbooks

大竹聖美・池 好順¹⁾

Currently, most of the works of children's literature in Korean elementary school textbooks are contemporary works by Korean writers. The contents tend to include a wide range of themes on real social issues. Global warming, the abandonment of the elderly, racism, gender politics, multiethnic society, online bullying, issues of diversity and inclusion, and North-South divisions, etc. This is a trend not limited to textbooks. Korean children's literature has a strong tendency toward social participation.

One of the major characteristics of contemporary Korean children's literature is the promotion of social participation. Such literature considers the future of children who must live in a multicultural society, a society that pursues sustainability, and a global digital network society.

キーワード：児童文学、韓国児童文学、韓国絵本、国語教科書、韓国初等学校

1. はじめに

韓国の初等学校ⁱは、日本の小学校に相当する6年制の義務教育で、国語教科書は国定教科書となっている。教育部長官（日本でいう文部科学大臣）が告示する教育課程（日本でいう学習指導要領）に定められた内容に従って制作された一種類の教科書を使用して、全国一律で教育が行われる。そのため、教科書に掲載された作品の影響力は大きい。

韓国の初等学校教育課程は、これまで何度も改訂されながら現在に至っているⁱⁱが、現在韓国で使用されている初等学校国語教科書は、2015年に改訂された教育部国語科教育課程に準拠している。

本稿では、この2015年改訂国語教科書を一

つのフィルターとして、韓国児童文学のどのような側面を考察したい。国定教科書を通して、同時代の韓国の子どもたちが触れている児童文学作品はどのようなものなのか。また、日本では「ごんぎつね」「モチモチの木」など、世代を超えて誰もが教科書で読んだことのある定番の作品が一定数あるが、韓国ではそのような作品が存在するのだろうか。そしてそれはどのような性格を持っているのだろうか。韓国の国語教科書は国定教科書として種類しかないので、韓国児童文学の一側面について明確に言及することができるだろう。

2. 韓国の国語教科書の概要

図1、図2は、4年生の国語教科書の表紙であ

1) 大韓民国・漢陽大学校BK21FOUR研究員

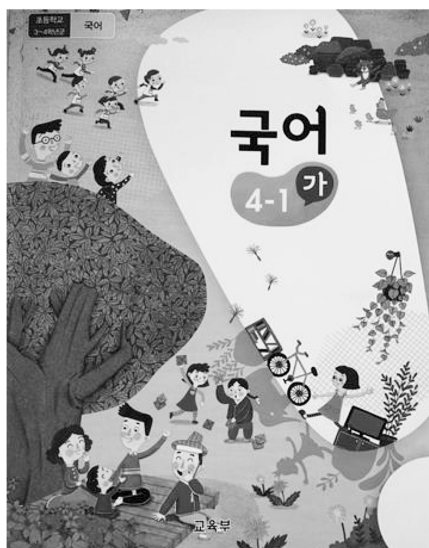


図1 『国語』4年(1・カ)大韓民国教育部、2019年、表紙



図2 『国語』4年(1・ナ)大韓民国教育部、2019年、表紙

る。1学期に「カ」と「ナ」(日本語に置き換えると「あ」と「い」に該当し、いわゆる上下巻になる。)の2分冊になっており、2冊通しでページが振られている。2学期用の「4年2・カ」「4年2・ナ」と合わせて1年間に4冊となり、約600頁の分量になる。1冊ごとに見るとそれぞれ約150頁+付録で、8mm程度の厚さがあるので、重ねて4cmほどになりずっしりと重い。縦

27cm、横21cm。A4判よりも縦が3cmほど短いサイズである。オールカラー。このほかに『国語活動』という補助教材が学期(2学期制)ごとに1冊あるので、1年間の国語教科書は補助教材の国語活動まで含めると合計6冊(「国語」4冊、「国語活動」2冊)となる。

教科書の中身はどうだろうか。教科書を開いて見ると、まず全体の作りがワークブックのような体裁になっていて(図3)、児童文学作品の本文自体が掲載されているページの割合がかなり少なくなっていたことに驚かされる。現在使用されている教科書は2015年改訂版で、大きく改訂されたと言われている。筆者は2000年前後に使用されていた第七次教育課程のものを見たことがあったが、そのころはまだ日本の国語教科書と類似した印象で、特に注目すべき体裁や工夫が目につくものではなかった。しかし、現在の日韓の国語教科書の体裁の違いは一見して明らかであり、教育の目的も方法も大きな相違があることはすぐに理解することができる。

さて、その教科書の中の体裁であるが、作品内容を図表化したり、イラスト化したりして、文章表現をビジュアル化して構造分析し、論理

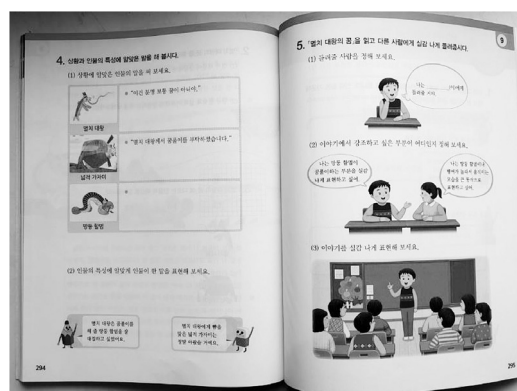


図3 「状況と人物の特性に合うようにセリフを言ってみよう」など、イラストや図表を多用してアクティブラーニングの指示が出されている。テキスト本文の掲載よりもこのような指示内容が書かれたワークページが多い。4年生『国語』2学期(ナ)、大韓民国教育部、2019年、PP.294～295

的に理解するように促す作業頁の占める割合が非常に高い。単語や短文をカード化した付録も巻末に添付されており、プレゼンテーションやロールプレイモデルが写真やイラストで紹介され、文章表現・国語表現をアクティブに学ばせる作りになっている。文学テキストを読むことそのものに力点が置かれているのではなく、テキストは素材であって、それをどう読み解き、論理的思考力を鍛え、表現に活用していくか、という活用型教育に力点が置かれているようだ。

しかし、本稿は、韓国の教育改革や教育制度を解明する目的で書かれるものではなく、そこで取り扱われる児童文学作品の状況に関心があるものなので、ここでは概要を述べるにとどめたい。

3. 児童文学作品の掲載数が大幅に減少した2015年改訂国語教科書

2015年改訂国語教科書では、韻文・散文ともに掲載作品数が大幅に減少したのが特徴である。実際、筆者は最新版教科書を取り寄せて中をばらばらと見ながら、科目を間違えたのではないかと表紙を再確認したほど紙面構成が日本の国語教科書の常識とは大きく異なるものであった。ページを繰って探さなければならないほど、テキスト本文が見当たらない。登場人物の心情を把握するためのキーワードを抜粋して図表化する作業をするスペースや、場面展開をイラスト化して論理的な状況把握を促すページなど、とにかくイラストや写真が豊富である。

現在の韓国の国語教科書では、アニメ・映画・ドラマ・漫画も国語教科書で積極的に教材として取り扱われている。教科書をばらばらとめくれば、誌面いっぱいには数種類の漫画作品が掲載されている(図4)し、アニメーションのコマ割りイメージが教材になっている(図5)ので子どもたちは興味を持ってページをめくるに違いない。

2015年改訂版国語教科書に収録された作品は全部で153編で、その内訳は、絵本・童話、



図4 박・ヒョン진文、윤・ジョン스 絵「授業中に」(4年生『国語』1学期(ナ)、大韓民国教育部、2019年、PP.280～285)

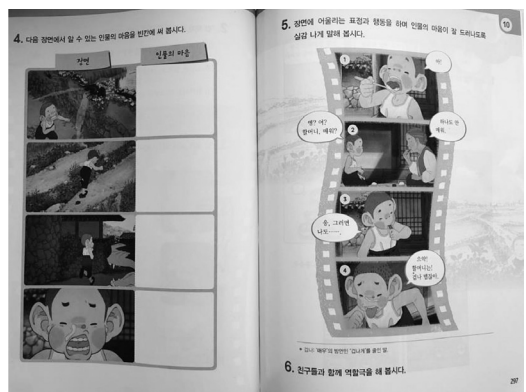


図5 動画を視聴した後に、心情把握に関する設問に答える。4年生『国語』1学期(ナ)、大韓民国教育部、2019年、PP.296～297

児童小説・伝記・戯曲などが132編、アニメ・映画・ドラマ・漫画などが21編ⁱⁱⁱである。かつては掲載作品の出典も作者名も明記しなかったばかりか、テキストも改変されていたのが韓国の国語教科書であったが^{iv}、現在は各巻末に出典、発表年と作者名一覧が掲載されている。しかし、部分的にそうした出典・作者が提示されていない作品も掲載されており、それらを除くと、絵本・童話・児童文学・伝記・戯曲などの作品数は103編に減少し、総計124編ということになる^v。

繰り返すが2015年改訂国語教科書に掲載された散文テキストで出典が明らかなものは合計103編である。1年生から6年生まで全学年合

わせての掲載数である。

2015年改訂教科書の前は、2007年、2009年改訂教科書だが、これらの教科書と比較すると大幅に作品数が減少しているのが明確である。2007年改訂教科書では、絵本や昔話を含む散文作品が201編、2009年は182編^{vi}であったので大削減と言えるだろう。特に5年生は、2009年の改訂教科書では33編掲載されていたのが、2015年ではたったの5編である。6年生は33編から11編への減少だ^{vii}。なぜこのように掲載作品を減らしたのだろうか。

4. 児童文学作品の掲載数が大幅に減少した理由——「読書」の単元の導入

さて、2015年改訂教科書ではなぜこれほど大幅に作品掲載数が減らされたのだろうか。一つ言えることは、「読書」の単元の制度的導入である。国語教科書への掲載作品を削減すると同時に、別途「読書」指導が系統的に行われるようになった。

例えば、4年生の国語教科書の中では、全29ページが「読書」の単元に割かれ、読書準備として本の選び方から読み方、読書後として内容

の要約訓練から友人との意見交換、読書活動の振り返り、読書習慣の育て方まで指導している(図6)。つまり、様々な制約の中で選択された児童文学作品を国語教科書の枠組みの中で読ませるのではなく、読みたい本を選ばせるところから始まり、1冊丸ごと作品世界に触れさせ、そうした読書活動そのものを習慣化させるところまで指導するという教育改革が行われたのである。

国語教科書に掲載される児童文学作品が大きく削減されたのは、文学あるいは本そのものとのかいを別枠で設けたことと関係しているだろう。

従来の国語教育では、長編小説を読んだり、1冊丸ごと作品を受容したり、自由に作品を選んだりすることができなかった。そればかりか、作者名を提示せず、作者のオリジナル作品を改変したテキストを部分的に、あるいは抄録したのがかつての韓国の国語教科書だったのである。本稿では、そうした学校教育における指導方法の変化に焦点を当てるものではないので、「読書」指導の方法など詳細への言及はしないが、このような国定教科書における文学作品の取り扱い方の大きな変化は、2000年以降の児童文学、絵本など児童図書出版の隆盛、良書の普及を支える推薦図書活動を行う市民運動、国立青少年オリニ図書館の開館(2006年6月)、「奇跡の図書館」(図7)(図8)と呼ばれる市民



図6 「読書の単位」中表紙。「勉強時間に本を読んで共に考えを分かち合う単位です。」とある。4年生『国語』2学期(カ)、大韓民国教育部、2019年、PP.7～35(全29ページ)



図7 順天奇跡の図書館(2017年大竹撮影)



図8 順天奇跡の図書館（2017年大竹撮影）

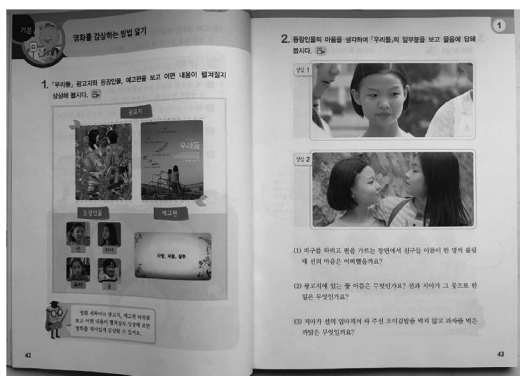


図9 映画を視聴し、映画の広告ポスターを活用した言語表現活動。4年生『国語』2学期（カ）、大韓民国教育部、2019年、PP.42～47

の募金で建設されボランティアによって運営される図書館が各地に出現したこと^{ix}など、ここ20年間の韓国の劇的な読書環境の変化や民主的な市民意識の変化に起因しているに違いない。

その他、2015年改定教科書では、演劇指導も含まれるようになった。演劇鑑賞にとどまらず、児童が実際に演じるのである。先述したように、アニメ（図4）・漫画（図5）・映画（図9）が国語教科書に掲載され、さらに演劇を通じた言語表現活動もある。やはり、従来の散文、韻文テキスト中心の国語教育から、多様なメディアと言語生活、言語表現へと移行しながら、児童文学などの散文・韻文作品は教科書の

中に納まらず、独立させて取り扱うようになったといえる。

5. 掲載されている児童文学作品は、8割が2000年以降の現代韓国の作品

前述したように、現在、韓国の初等学校国語教科書に掲載されている著者名が明記された散文テキストは103編である。そのうちの18編、17.4%は外国作品で、うち4編は中華圏、アフリカ、フランスの作家の作品。残り14編はすべて英語圏の作家によるものである^{ix}。

つまり、韓国人作家の作品は85編になるのだが、その85編の作品の原典の出版年度を見ると、そこには非常にはっきりとした特徴があった。2000年代以降に創作された作品がほとんどであるという点である。2000年代の作品が19編、2010年代の作品が61編、計80編が2000年以降の作品となっており、さらに、そのうち15編は、2015年以降の作品であった。

整理すると、現在、韓国の初等学校国語教科書では、掲載されている作品の8割強が国内作家の作品で、そのうち、94%がここ20年間の作品で、そのうちの2割弱が最近5年以内の作品であるということになる。一言で言うと、韓国の国語教科書は、非常に新しい、現代の作家の作品を掲載しているということになる。

補足すると、新しい作品を掲載しているという傾向は外国の作品についても同様のことがいえる。教科書に記載されている出版年度というと、90年代が4作、2000年代が4作、2010年代が10作である。ただし、E.B.ホワイト『シャーロットのおくりもの』が6年生の教科書に掲載されているが、この出版年が2011年になっており注意が必要である。『シャーロットのおくりもの』の韓国語版は、すでに2000年にキム・ファゴンの翻訳でシゴンジュニアから出版されているので、おそらく教科書に掲載された書誌情報は作品の初出の出版年度ではなく、底本とした書籍の出版年度を意味しているのだろう。つまり、韓国で最初に翻訳書が出版

表1 韓国児童文学の評価・研究に関わる重要事項年表 *大竹作成、2020年12月

1967年	『児童文学概論』（文運堂）刊行	李在徹著。初の体系的韓国児童文学史。
1976年	『児童文学評論』（児童文学評論社）創刊	李在徹主幹。児童文学の評論と研究が本格的に始められ、現在も年4回刊行されている。通巻176巻。
1978年	『韓国現代児童文学史』（一志社）刊行	李在徹著。韓国児童文学研究の基盤となる。
1980年	オリニ図書研究会 設立	読書文化を推奨する市民運動団体。推薦図書目録作成。
1988年	韓国児童文学学会 創立	韓国初の児童文学学会
2003年	順天奇跡の図書館 開館	最初の「奇跡の図書館」。募金とボランティアで成り立つ民間図書館。2020年現在、韓国内に14か所。
2006年	国立オリニ青少年図書館 開館	韓国初の国立こども図書館
2007年	韓国児童青少年文学学会 創立	
2010年	韓国児童文学研究センター 開設	慶熙大学校中央図書館内

された年度を記しているのでもないし、ましてや原書の初版年度でもないということである。そのため、児童文学作品としての文学史的な意味をここから読み取ることはできないのである。もう一例挙げると、アーノルド・ローベル『ふたりはともだち』も掲載されているが、出版年度は1996年と表記されている。これは確かに同年ピリョンソから出版されたオム・ヘスクの翻訳書の刊行年度であり、この年度に初めて韓国語で本書が出版されたということであるが、それはもちろん原書の刊行年（1970年）ではない^x。原書の発表年も教科書には掲載されていない。

6. 最近の作品が掲載される理由

韓国において、現在最も長い歴史を持つ児童文学研究・評論の専門誌『児童文学評論』^{xi}の2019年冬号^{xii}において、「改訂初等『国語』教科書^{xiii}集録児童文学探索」という特集が組まれた。童詩等韻文作品の掲載数などを分析した評論と、掲載された散文作品の分析をした評論の2本が掲載され、そのうち、散文を分析したの

がパン・ウンス^{xiv}である。パンによると、韓国の国語教科書に掲載されている児童文学作品が現代の新しい作品ばかりであるのは「権威ある児童文学全集や整理された児童文学史の不在」^{xv}に起因しているという。

『児童文学評論』が創刊され、本格的に児童文学の評論と研究が始められたのが1976年。韓国児童文学学会が設立されたのが1988年。韓国初の国立子ども図書館である「国立オリニ青少年図書館」が開館したのが2006年。「韓国児童青少年文学学会」^{xvi}の設立が2007年。韓国初の児童文学研究センターである「韓国児童文学研究センター」^{xvii}の開設が2010年。このように韓国の児童文学研究および評論は発展してきている（表1）が、いまだ、韓国社会一般に認められるような古典や名作が定まっていない、近現代児童文学史を総括した全集や文学史が整っていない、ということなのだろうか。

さらに、パンの見解では、教科書に収録されている作品は、文壇からの十分な評価を受けたものではなく、作品の文学史的評価とは無関係であるという^{xviii}。最新の作品が教科書に収録

表2 現代社会の諸問題をテーマとした教科書掲載作

テーマ（現代社会の諸問題）	タイトル	学習時期	著者，発表年
地球温暖化の深刻性	「투발루에게 수영을 가르칠걸 그랬어 (ツバルに水泳を教えておけばよかった)」	4年2学期	ユ・タジョン, 2008
老人の貧困	「우주호텔 (宇宙ホテル)」	6年1学期	ユ・スンヒ, 2012
人種差別問題	「사라, 버스를 타다 (サラ、バスに乗る)」	4年2学期	ウィリアム・ミラー, 2004
性別による固定観念への異議	「종이 봉지 공주 (紙ぶくろの王女さま)」	2年2学期	ロバート・マンチ, 1998
韓国社会における多文化現実	「젓가락 달인 (おはしの達人)」	4年2学期	ユ・タロ, 2014
インターネットの悪質な書き込み文化の弊害	「마녀 사냥 (魔女狩り)」	5年2学期	イ・ギュヒ, 2013
障害者	「진짜 투명 인간 (本当の透明人間)」	3年2学期	レミー・クルージョン, 2015
南北分断の現実	「주인 잃은 옷 (主人を失った服)」	4年2学期	ウォン・ユスン, 2015
参照：방은수「2015 초등학교『국어』교과서에 수록된 서사문학작품 탐색」아동문학평론, 2019.12 (方銀洙「2015初等学校『国語』教科書に収録された叙事文学作品探索」『児童文学評論』173号、2019年12月)			

された事実が先立ち、教科書掲載作品であるという理由で、後を追うかたちで文壇の評価を受けているのが現状であるという。韓国は国定教科書で、そこに掲載された作品は学齢期にある国民が必ず読むことになるため、絶大な影響力を持つということだ。

7. 現代社会の諸問題を扱った作品の収録

掲載作品の内容を見ると、現実の社会問題をテーマとした作品が幅広く収録されている点を指摘できる。地球温暖化の深刻性^{xix}、老人の貧困^{xx}、人種差別問題^{xxi}、性別による固定観念への異議^{xxii}、韓国社会における多文化現実^{xxiii}、インターネットの悪質な書き込み文化の弊害^{xxiv}、障害者^{xxv}、南北分断の現実^{xxvi}など、まさに今現在、ニュースなどで話題になっている現実社会における現代的な問題の数々をテーマとした児童文学作品が早くも教科書に掲載されている

のである(表2)。

日本では、評価の定まった名作、繰り返し読み継がれた定番作品こそ教科書にふさわしいと思いがちだが、韓国では、発表されたばかりで評価も定まっていない作品、描写されるテーマも同時代の未解決問題、議論が現在進行中の問題こそ、積極的に教科書に採用されるべきであると主張しているようにすら感じられる。これは、今まさに自分が生きている目の前の社会のリアルな問題への認識を促し、思考させ、今後の解決策そのものを未来社会を生きていく子どもたち自身に見出してもらおうという意図があるからのように読み取れる。つまり、ここには明確な教育観や教育目的に基づいて教科書が作成されていることが読み取れるのだ。

では、こうした現代の作品を教材に選択する教育目的はどうなっているのだろうか。日本の学習指導要領に該当する『初・中等学校教育課

程 総論(別冊1)』(大韓民国教育部、2015年)を見ると、例えば、「韓国の教育課程が追求する人間像」として、「自主的な人間」「創造的な人間」「教養ある人間」「ともに生きる人間」が挙げられている。そして、「育成すべき能力」としては、「自己管理能力」「知識情報処理能力」「創造的思考力」「審美的感性力」「コミュニケーション力」「共同体力」が挙げられている。この原則に則って、国語教科書の掲載作も選ばれたのだろう。

それにしても、これらの人間像を追求し、能力を育成するのに古典作品が役に立たないわけではないのだから、古典作品の掲載がほとんど見当たらず、大部分が現代の作品である理由として、韓国児童文学の歴史的な未成熟さを指摘されるのはやむを得ない。

また、筆者は、もう一つ別の解釈ができると考えている。つまり、同時代の現代社会の問題を描く作品が多数掲載されている背景には、やはり、韓国児童文学そのものが持つ明確な特徴があるからだということと、その特徴は、「社会参与主義」傾向が強いということである。つまり、韓国児童文学作品の中から、現代的な社会問題のトピックスばかりを探して選んだというよりも、韓国児童文学作品には、そもそも現代社会の諸問題を扱ったリアリズム文学・社会参与主義文学の傾向が強いという点を指摘できるということである。教育、児童文学、言論、出版、読書運動などに携わる現代韓国社会を生きる大人たちの中には、社会変革を志す一定の分厚い層が形成されていて、表現活動をする強いモチベーションである場合が多い。

これは、植民地支配と朝鮮戦争を経た分断国家であるという背景、軍事独裁や経済開発下での過酷な人権問題の数々、民主化運動と労働争議を繰り返してきた現代史、など現代韓国そのものを物語っているのである。

8. 教科書に掲載される現代韓国児童文学の特徴

現代韓国児童文学作品の特徴として、現実の社会問題を扱ったものが多い点を指摘したが、そうすると必然的に作品世界は学校、家庭、塾など、子どもの日常的な生活世界にとどまることになる。そして作品に描かれる葛藤も、教師や友人、家族内のできごと、つまり内輪の問題ばかりということになる。

現代韓国児童文学作品は、実は日本でもある程度翻訳紹介されている。例えば、2008年から2011年の間に、「韓国人気童話シリーズ」として、韓国の出版社の現文メディアが日本語に翻訳し理論社からの販売で16冊ほどが出版された。例えば、図10～12のような作品である。このシリーズは、韓国で様々な賞を受賞し、よく売れているものばかりを選んで翻訳したものだ。同時代の韓国の人気児童文学作品がシリーズで翻訳紹介されたのは、2005年の汐文社の「いま読もう!韓国ベストよみもの」全5冊に続く二度目のことだったのだが、両シリーズ共に日本ではほとんど話題にならなかった。

その理由は、やはり、そこに描かれている世界があまりにも韓国の国内的な話題に終始してしまっているということに他ならないだろう。成績(図10)、容姿(図11)、南北分断(図12)



図10 チョン・ソンラン作、高橋宣壽訳『成績があがる魔法のチョコ』理論社、2010年



図11 イ・ミエ作、吉田昌喜訳『太って太ってぼくはぼく』理論社、2010年



図12 ウォン・ユスン作、榎原咲月訳『北からやって来た女の子』理論社、2008年

など、主人公の葛藤は、内輪の問題にとどまり、人間や社会、文化を描くのには一歩文学性が不足していたため、日本の読者は魅力を感じなかったのではないだろうか。

同じように、韓国の国語教科書では、現代的な問題を扱った作品が多く掲載されているが、成績や容姿と言った卑近な話題の作品ではなく、多様性や持続可能性、そして人権問題など、グローバルな価値観を前面に出ている作品を教科書掲載作として意識的に選択しているといえるだろう。もっと言うと、国定教科書として積極的にグローバル人材を育成しようとする

方向性を読み取ることができる。

しかし、現代的な問題を扱っているとはいえ、例えば、自殺や家出、性や暴力など、子どもたちにとって現実問題として深刻で切迫した問題に関しては教科書では取り扱われてはいない。これは日本でも同様である。

9. 教科書に掲載される近代の作家

ここまで、現行の韓国の初等学校国語教科書に掲載されている作品のほとんどは、2000年以降、ここ20年間に発表された国内の作品であることを述べたが、近代の作品が皆無かというとはそうではなく、方定煥「ウサギの裁判」、馬海松「岩ゆりと赤ちゃん星」、尹東柱「春」の3作品が掲載されていた。

また、本稿では詳しく述べないが、昔話は比較的多く紹介されている。ただし、昔話の再話全文が掲載されるのではなく、タイトルだけとか、部分的にその存在を想起させる形で繰り返し紹介されており、昔話は国語や国語表現、文化資源として尊重されている印象を受ける。教科書に掲載された昔話に関しては他の研究に譲る^{xxvii}。

さて、教科書に掲載される近代の作家とその作品であるが、方定煥「ウサギの裁判」と馬海松「岩ゆりと赤ちゃん星」は、第7次教育課程（1997年）から2015年改訂教科書まで4回連続収録されている。このことから、方定煥と馬海松、ならびにこの二作品は、韓国児童文学史上の価値が認められ定番化していると考えることができるだろう。

このようなケースは他の作家、作品には見られない。韓国の教科書は国定教科書として1種類しかないため、教科書改訂のたびに掲載作品が入れ替わる傾向が強い。歴史的な評価が確実な作品を除いて、国定教科書としての影響力を考慮して掲載は固定化されないのではないか。そのため、文学史上の評価が定まった方定煥、馬海松、尹東柱の作品は、国語教科書の安定化に欠かせない存在となっていると言えるのでは

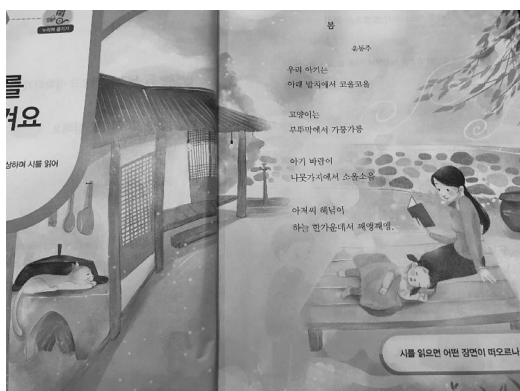


図13 尹東柱「春」、2年生『国語』1学期(カ)、大韓民国教育部、2019年、PP.6～7

ないだろうか。

方定煥「ウサギの裁判」は、近代最初の本格的児童文芸誌『オリニ』の1923年10月号に掲載された戯曲で、韓国に伝承される昔話を方定煥が児童劇の脚本として再話したものである。教科書では、3年生の2学期に「作品の中の人物になって」という単元で、「人物の性格を考えながら、脚本を声に出して読む」という課題に使われている。近代韓国児童文学の創始者とされる方定煥によって再話(戯曲化)された昔話という点で、民族文化に根付く国語活用教材としてうってつけといえる。

馬海松「岩ゆりと赤ちゃん星」は、同じく『オリニ』の1926年1月号に掲載された作品で、一般に、本格的な創作児童文学の嚆矢とされる作品である。3年生の1学期『国語活動』の教科書に掲載された。

尹東柱「春」は、2年生1学期の最初の単元「詩を楽しもう」の巻頭を飾っている(図13)。短いので作品を紹介したい。

봄

윤동주

우리 아기는

아래 밭치에서 코을코을

고양이는

부뚜막에서 가릉가릉

아기 바람이

나뭇가지에서 소울소울

아저씨 해님이

하늘 한가운데서 켜앵쨌앵.

春

尹東柱

いとし子は

あしもとで すやすや

ねこは

かまどで くうくう

そよ風が

木のえだに そよそよ

おてんとうさまが

お空の まんなかで ぼかぼか

(大竹聖美訳)

10. 韓国の教科書掲載作は日本ではどの程度受容されているだろうか

韓国の初等学校国語教科書に掲載された作品となれば、国定教科書であるため、韓国では誰もが知っている国民的な作品ということになる。

国定教科書に掲載されている国民的な作品を知ることは、その国の感性や精神的土壌を知ることになるだろう。特に隣国の国民的な物語を互いに接して理解し合うことは、多文化共生の時代においてもっと積極的であって良い。では、日本では、そうした隣国の国民的な物語をどのくらい共有しているだろうか。

現行の韓国の初等学校国語教科書に掲載されている作品のうち、日本で翻訳出版されているものは、昔話絵本が2冊と古典説話を絵本化したものが2冊である(表3)。

クオン・ジョンセン文、キム・ヨン Chol

表3 日本で翻訳紹介されている掲載作——絵本作品

著者、訳者『邦訳タイトル』出版社	掲載教科書
①クォン・ジョンセン文、キム・ヨンチョル絵、金広子訳『ゆらゆらゆくよ』小峰書店、2007年	2年2学期（カ）
②イ・ヨンギョン作、かみやにじ訳『あかてぬぐいのおくさんと7にんのなかま』福音館書店、1999年	3年1学期（ナ）
③イ・ヨンギョン作、おおたけきよみ訳『不思議なかけじく』アートン、2004年	4年1学期（国語活動）
④チョン・ミジン再話、イ・ジョンギョングン絵、おおたけきよみ訳『イワシ大王のゆめ』光村教育図書、2019年	4年2学期（ナ）

表3-①



表3-②



表3-③



表3-④



絵、金広子訳『ゆらゆらゆくよ』（小峰書店、2007年）は2年生の2学期の教材で、日本の『おんちよろちよろ』^{xxviii}に類似した昔話である。

イ・ヨンギョン作、かみやにじ訳『あかてぬぐいのおくさんと7にんのなかま』（福音館書店、1999年）は、3年の1学期の教材で、古典説話を絵本化したものだ。原書は1998年に出版されており、現代韓国絵本のなかでも初期の作品である。日本では1999年に翻訳出版されており、1990年代に翻訳された三冊目の韓国の絵本である。1990年代の日本では、本作と、1990年に翻訳された『山になった巨人 白頭山物語』（福音館書店）^{xxix}、1998年に翻訳された『マンヒのいえ』（セーラー出版）^{xxx}の他は、まったく翻訳紹介されていなかった。

イ・ヨンギョン作、おおたけきよみ訳『不思議なかけじく』（アートン、2004年）も古典説話を絵本化した作品である。4年生1学期の『国語活動』に掲載されている。

チョン・ミジン再話、イ・ジョンギョングン絵、おおたけきよみ訳『イワシ大王のゆめ』（光村

教育図書、2019年）は昔話で、4年生2学期の教材である。

また、韓国の国語教科書には昔話が多く紹介されている。全文掲載ではなく、タイトルだけが紹介されていたり、すでによく知られている知識や教養として頻出している。韓国の文化的背景、民族文化を確認しているような印象を受ける。

このように教科書の中で韓国昔話の登場回数は高く感じられるが、たびたび登場する昔話の中でも、特に日本でも絵本化されたり類話が翻訳出版されているものを整理すると、『へらない稲束』『とらとほしがき』『プルガサリ』『あずきがゆばあさんとトラ』『水宮歌』などを挙げることができる（表4）。

日本の教科書に掲載されている韓国の昔話では『三年とうげ』（光村図書出版、3年下）が有名だが、現行の韓国の教科書の中に『三年とうげ』は見当たらなかった。

一方、『三年とうげ』と同じ李錦玉（作）と朴民宜（絵）による『へらない稲束』（岩崎書店）

表4 原話が教科書に紹介されている昔話のうち、絵本化されたものが日本で翻訳出版されている事例

著者、訳者『邦訳タイトル』出版社	原話が紹介されている教科書
①李錦玉作、朴民宜絵『へらない稲束』岩崎書店、1985年	2年2学期(カ)
②パク・ジェヒョン文と絵、おおたけきよみ訳『とらとほしがき』光村教育図書、2006年	2年2学期(カ)
③キム・ジョンチョル文、イ・ヒョンジン絵、ピョン・キジャ訳『プルガサリ』岩崎書店、2011年	2年2学期(ナ)
④チョ・ホサン文、ユン・ミスク絵、おおたけきよみ訳『あずきがゆばあさんとトラ』アートン、2004年	2年2学期(ナ)
⑤イ・ヒョンスン文、イ・ユッナム絵、おおたけきよみ訳『水宮歌』アートン、2004年	1年1学期(ナ) 6年1学期(ナ)

と同一の昔話は2年生の教科書で出てくる。せっかくなので、日本でも同じ教材を同じ学年で読んでみるのも面白いのではないだろうか。

その他、韓国の現行の教科書に掲載されている『とらとほしがき』は、日本では現在教科書に本文は掲載されていないが、読書案内として小学校2・3年生の国語教科書で紹介されている^{xxxi}。

最後に、韓国の絵本が日本でも注目されるきっかけになった2作品について述べたい。

一つは、2001年の全国学校図書館協議会主催の「青少年読書感想文全国コンクール課題図書」に選定された『ソリちゃんのチュソク』（図

14）である。韓国の作品が選定されるのは初めてのことだった。この作品を通して、韓国の伝統的な風習を知った日本の子どもたちがたくさんいたに違いない。本作は、韓国では2年生の2学期に扱われる。急激に生活様式が変化している近年の韓国の都会暮らしの子どもたちにとっても学ぶべき伝統的な風景なのかもしれない。

もう一つは、韓国の代表的な童話作家である権正生の『こいぬのうんち』だ。韓国で第一回キリスト教児童文学賞を受賞した作品で、日本でも2000年に翻訳出版されている（図15）。韓



図14 イ・オクベ作、みせけい訳『ソリちゃんのチュソク』セラー出版、2001年



図15 クォン・ジョンセン文、チョン・スンガク絵ピョン・キジャ訳『こいぬのうんち』平凡社、2000年

国の教科書にながらう掲載されており、現行の教科書ではアニメーション化された作品が3年生の1学期の教科書に登場している。現代の童話作品のなかでも最も広く知られた国民的な作品といえるだろう。日本でもアニメーション作品は販売されている。2000年以降に韓国の絵本が本格的に紹介されるきっかけになった作品とってよい。

『ソリちゃんのチュソク』も『こいぬのうんち』も共に、韓国では初版が出てから20年以上が経過した現在までロングセラーを続けている。教科書でも大きく取り扱われ、この二作はまさに現代韓国を代表する作品なのである。日本でもすでに翻訳されて20年がたつが、新しい絵本がどんどん紹介されていく中で、これら草創期の名作の存在感はいかばかりだろう。現地で評価が確立している作品に関しては、日本でもその位相が尊重され、多文化理解と共生に活用されると良いだろう。

11. おわりに

韓国では、現行の2015年改訂国語教科書から、児童文学作品の掲載に関して非常に大きな変化があった。

まず、作品数の大幅削減である。出典や作者が提示された児童文学作品（絵本・童話・戯曲など散文テキスト）は、全部で103編だった。2007年改訂教科書では、絵本や昔話を含む散文作品が201編、2009年は182編であったので大削減である。特に5年生は、2009年は改訂教科書では33編掲載されていたのが、2015年ではたったの5編。6年生は33編から11編へ減少している。

これは、2015年改訂教科書から、「読書」の単元が導入され、散文テキストを教科書に掲載させて一斉に読むスタイルの教育から、各自で本を選ぶところから始めて、本を1冊丸ごと読み、読書習慣を身に付けさせる教育へと変化したことによる。

また、教科書のレイアウトからは、散文テキ

ストの掲載に紙面を割くのではなく、図表やチャートを多用し、ワークシートスタイルでアクティブラーニングを促す編集方針に変化していることが見て取れる。

これらは、韓国の教育政策の変化、教育課程や教育方法の変化によるものといえるが、一方で、筆者は、こうした「読書」教育の重視という国の政策転換を後押ししているのは、2000年以降の出版文化の隆盛、図書館の建設と自由な読書を推進する市民運動の成長、児童文学評論や研究の発展があったためであることを述べた。

このように、教科書外での「読書」活動が活発になる一方で、教科書に掲載される作品は減少し、必然的に掲載作は厳選されることになる。そうした状況で掲載されている103編の作品にも一定の特徴を見出すことができた。

注目すべきことは、掲載作の8割は国内の作家の作品で、そのほとんどが2000年以降の現代の作品であったことである。近代の作家の作品は、散文では方定煥、馬海松の2作のみである。

そして、掲載作品の内容を見ると、現実の社会問題をテーマとした作品が幅広く収録されていることに気づかされる。地球温暖化問題、老人の貧困、人種差別、ジェンダー、多文化社会、インターネットの悪質な書き込み問題、障害者、南北分断など、現代社会のホットなトピックスを扱った作品が意識的に掲載されているように見える。

この点に関しては、筆者は教科書に限った特徴ではないということを述べた。韓国児童文学には、社会参与主義の傾向が強い。日本語に翻訳されたものに「いま読もう！韓国ベストよみもの」全5冊（汐文社、2005年）、「韓国人気童話シリーズ」全16冊（現文メディア、2008～2011年）があるので、それらを読んでも分かるだろう。

以上、現行の国語教科書の分析を通して、現代韓国児童文学の特徴の一側面を考察した。それは、現代社会の諸問題が多角的に取り扱わ

れ、多文化共生社会、持続可能性を追求する社会、グローバルなネットワーク社会を生きる子どもたちの未来を考えた積極的な社会参与の文学であるといえる。

韓国の国語教科書では、散文や韻文の文学作品や論説文だけでなく、漫画やアニメ、映画作品などが教材として登場する、多様なメディアリテラシーに接近する単元も目立っていた。動画や音源も活用している。積極的な社会参与傾向は、文学のテーマだけではなく、現代社会の多様な表現形式とメディアやテクノロジーを教育に積極的に取り込んでいる様子からもうかがえるだろう。

また、韓国の教科書掲載作がどの程度日本に紹介されているかについても整理した。現代社会の諸問題をテーマにした作品は、掲載作が数年で入れ替わる現状があるようだが、絵本や昔話に関しては、一定数、継続して掲載されている定番の作品を把握することができる。それらのうち、日本でも翻訳出版されているものを表3と表4に整理した。

しかしながら、韓国の定番作品が表3・4のように翻訳出版されているとはいえ、その位相が韓国の様に正しく認識され確立されているとは言い難い。この点からも更なる韓国児童文学研究の必要性を再認識させられた。

*本稿は、科研費研究(20K00522)「東アジア児童文学史の構築をめざして——出発としての国語教科書掲載作の検証」の研究分担者としての研究成果の一部である。

参考文献

<日本語>

- ・石川裕之「韓国における国家カリキュラムの構成と教育目的—初等教育段階に注目して—」『畿央大学紀要』14巻、2017年6月
- ・金廣植「韓国の教科書と昔話」『世界の教科書に見る昔話』三弥井書店、2018年
- ・金廣植「韓国の教科書に収録された昔話に關

する研究」『Walpurgis 2020』國學院大學外國語文化学科紀要、2020年

- ・崔仁鶴「比較研究から見る韓国教科書の昔話」『世界の教科書に見る昔話』三弥井書店、2018年

<韓国語>

- ・大韓民国教育部『初等学校 国語』教科書、1年～6年、全24冊、2019年刊行(2015年改訂教育課程版)
- ・방은수「2015 초등학교『국어』교과서에 수록된 서사문학작품 탐색」아동문학평론, 2019.12
(方銀洙「2015初等学校『国語』教科書に収録された叙事文学作品探索」『児童文学評論』173号、2019年12月)
- ・NCIC 국가교육과정 정보센터(大韓民国国家教育課程情報センター): www.ncic.re.kr

ⁱ 名称が何度か変わっている。1945年～初等学校、1954年～国民学校、1997年～初等学校

ⁱⁱ 1945年教育課程、1955年第一次教育課程、1963・69年第二次教育課程、1973・79年第三次教育課程、1981年第四次教育課程、1987年第五次教育課程、1992・95年第六次教育課程、1997・2004・2006年第七次教育課程、2007改定、2009改定、2015改定、以上11種類。

ⁱⁱⁱ 방은수「2015 초등학교『국어』교과서에 수록된 서사문학작품 탐색」아동문학평론, 2019.12, p.38

^{iv} この件については、本稿が教科書研究を目的としているものではないので作品の教科書掲載方法の変遷史に関する言及はしない。筆者が韓国に滞在して研究していた時に見ていた第七次教育課程の国語教科書は、作者名も出典も書かれておらず、テキストも改変されたものが掲載されていた。

^v 방은수, 2019, P.38

- vi 방은수, 2019, P.42
- vii 방은수, 2019, P.43
- viii 2003年11月に順天奇跡の図書館が開館したのを皮切りに、2020年12月現在、韓国国内に14カ所が運営されている。民間の図書館。図書館の建設から運営まで市民による募金やボランティアで行われ、子どもの本専門図書館であったり、そうでなくても必ず子どもの本専用コーナーが設置されている。
- ix 방은수, 2019, P.42
- x 原書は1970年刊行。アメリカ。日本語版は1987年に三木卓訳で文化出版局より刊行されている。
- xi 1976年5月31日創刊。現在は、韓国児童文学研究センターから年に4回刊行されている。
- xii 通巻173号、2019年12月刊行。
- xiii 2015年改定の初等学校国語教科書のこと。
- xiv 방은수「2015 초등학교『국어』교과서에 수록된 서사문학작품 탐색」아동문학평론, 2019.12
- xv 방은수, 2019, P.44
- xvi 初代会長は、現在韓国で最も活躍している児童文学研究者および評論家である元鐘讃(ウォン・ジョンチャン)。韓国では学術研究の学会であっても、同一分野にいくつかの同種の学会が林立する傾向があり、児童文学研究の分野では「韓国児童文学学会」が存在していたが、もう一つの児童文学専門研究学会として誕生した。
- xvii 慶熙大学校中央図書館内に開設された。
- xviii 방은수, 2019, P.44
- xix 「투발루에게 수영을 가르칠걸 그랬어(ツバルに水泳を教えておけばよかった)」4年生2学期に収録。유다정, 2008.
- xx 「우주호텔(宇宙ホテル)」6年1学期に収録。유순희, 2012.
- xxi 「사라, 버스를 타다(サラ、バスに乗る)」4年2学期に収録。ウィリアム・ミラー, 2004.
- xxii 「종이 봉지 공주(紙ぶくろの王女さま)」2年2学期に収録。ロバート・マンチ, 1998.
- xxiii 「젓가락 달인(おはしの達人)」4年2学期に収録。유태루, 2014.
- xxiv 「마녀 사냥(魔女狩り)」5年2学期に収録。이규희, 2013.
- xxv 「진짜 투명 인간(本当の透明人間)」3年2学期に収録。레미·클루ジョン, 2015.
- xxvi 「주인 잃은 옷(主人を失った服)」4年2学期に収録。원유순, 2015.
- xxvii 金廣植「韓国の教科書と昔話」『世界の教科書に見る昔話』三弥井書店、2018年
金廣植「韓国の教科書に収録された昔話に関する研究」『Walpurgis 2020』國學院大學外国語文化学科紀要、2020年
崔仁鶴「比較研究から見る韓国教科書の昔話」『世界の教科書に見る昔話』三弥井書店、2018年
- xxviii 梶山俊夫絵、瀬田貞二再話『おんちよろちよろ』福音館書店、1970年
- xxix リュウ・チェスウ作、イ・サンクム、松居直共訳『山になった巨人—白頭山物語』福音館書店、1990年
- xxx クォン・ユンドク作、みせけい訳『マンヒのいえ』セーラー出版、1998年
- xxxi 2年生(光村図書出版)、3年生(教育出版、三省堂、東京書籍)